

外部評価委員会の実施

京都大学大学文書館 西山 伸

1 外部評価委員会開催までの経緯

京都大学大学文書館は、第3期中期目標・中期計画期間（2016～2021年度）に自己点検・評価および外部評価を実施することとし、まず前者については2019年度に行った。「Ⅰ 概要と事業の状況」「Ⅱ 自己評価」を主たる内容とする自己点検・評価報告書（案）を作成、2020年2月17日開催の大学文書館運営協議会に提出、審議の上承認を受けた。同案は『京都大学大学文書館 自己点検・評価報告書 2016-2019年度』として同年3月27日に刊行した（同書の主要部分は一覧報告書「附属資料」に収録）。

外部評価については、同じ2月17日の運営協議会において外部評価委員会の設置が承認され具体的な準備作業に入った。大学文書館教員会議での検討を経て、9月28日開催の大学文書館運営協議会において外部評価委員候補者（案）および評価項目（案）が審議され、承認された。承認された候補者および評価項目は以下のとおりである。

○京都大学大学文書館外部評価委員会委員

尼崎市立地域研究史料館前館長	辻川 敦
東京学芸大学教育学部教授	君塚仁彦
東京大学文書館准教授	森本祥子

（なお、尼崎市立地域研究史料館は2020年10月10日をもって新設の尼崎市立歴史博物館に統合された）

○外部評価項目

1 組織・財務・施設

- （1）職員
- （2）運営組織
- （3）経費
- （4）施設・設備

2 事業

- （1）資料の受入・整理
- （2）資料の公開
- （3）資料の利用提供
- （4）調査研究活動
- （5）教育研修活動
- （6）広報普及活動

- (7) 全学的行事・他部局への協力
- (8) 他機関等への協力、社会貢献
- 3 今後の方向性
- 4 その他

2 外部評価委員会の開催

外部評価委員会は2020年11月27日に開催された。

評価委員は当日午後1時に京都大学百周年時計台記念館1階に集合し、まず大学文書館の西山伸教授が歴史展示室の案内を行った。次いで午後2時から西山と元ナミ助教が大学文書館内の案内を行い、午後3時30分から館内会議室において評価委員と大学文書館側の意見交換を行った。出席は評価委員3名と、大学文書館側から伊藤孝夫館長・西山教授・元助教・川口朋子助教・橋本陽助教であった。意見交換は、最初に西山から前記自己点検評価・報告書にもとづいて大学文書館の活動について若干の説明を行い、その後各委員から自由に発言をいただき、それに対して大学文書館側が応答する形をとり、午後5時終了した。

評価委員の当日の発言は、本書収録の各委員による報告書のとおりであるが、大学文書館の事業については概ね肯定的な評価をされる一方、組織の継続性という観点からみて教員組織が十分でないこと、電子化に対応した文書の受入体制を考慮する必要があること、アーカイブズ学に基づく教育を行っていくべきこと、などは今度の課題として共通に指摘されるところがあった。



外部評価委員会の様子